

<全体分析>

試験時間 2科目150分

解答形式

記述, 論述, 選択

分量・難易(前年比較) 分量(減少・変化なし・増加) 難易(易化・変化なし・難化)

大問数は例年通り3題であり、問題文の分量は昨年より増加し、論述問題の指定行数は昨年の27行程度から24行程度へとやや減少したことから、全体としての分量は昨年並みであった。さらに、昨年と比較すると難度の高い考察問題や計算問題が減少し、知識問題の割合が増加したことから、難度は昨年よりやや易化したと考えられる。

出題の特徴

出題の多くは考察問題であるが、生物学用語の穴埋めや文章選択型の知識問題も出題される。出題の中心は論述問題であり、今年指定行数が1行程度(1行は約35字)や2行程度の問題がほとんどであったが、過去には指定行数が4～5行程度の比較的長い問題も出題されている。

その他トピックス

過去の出題のほとんどは、問題前文が2～4つの文(文1, 文2…)に分かれていたが、今年の第1問は問題前文が複数の文に分かれていなかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 論述 選択	細胞分裂 恒常性 免疫 遺伝子 発生	生物 基礎 ・ 生物	E ゲノムDNAの再編成が起こる遺伝子として、 解答例以外に、T細胞受容体遺伝子がある。	標準
第2問	記述 論述 選択 計算	細胞・組織 タンパク質 遺伝子 進化 代謝 植物の反応	生物 基礎 ・ 生物	IID パルミチン酸は炭素数16であり、アセチル CoAは炭素数2なので、β酸化によってパ ルミチン酸1分子あたり8分子のアセチル CoAが生じる。また、脂肪1分子を分解すると3分 子の脂肪酸が生じる。	標準
第3問	記述 論述 選択 計算	生態系 個体群 植物の反応 細胞分裂 動物の行動	生物 基礎 ・ 生物	IIID ジャスモン酸類の量は、連続暗条件下におい て、明暗条件が継続されていたとした場合の、 明期開始から4時間後にピークを迎え、ガP 幼虫の採餌量は、暗期の開始時にピークを迎え ると考えられる。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 教科書レベルの知識を確実に身につけ、標準的な問題を解いておこう。
- 50~100字程度の論述で、要点を素早く簡潔にまとめる練習をしておこう。
- 過去問、とくにここ数年間の研究を十分にしておこう。
- 最近の生物学のトピックスにも注意しておこう。